

Y05a 火星観測週間 / マーズウィークの活動報告

時政典孝、黒田武彦（西はりま天文台）、縣秀彦（国立天文台）、小野夏子（板橋区立教育科学館）、木村かおる（理化学研究所）、鈴木文二（埼玉県立三郷工業技術高校）、吉川真（JAXA）、渡部潤一（国立天文台）、渡部義弥（大阪市立科学館）

2003年8月27日に大接近した火星は、観望した多くの市民を魅了し、火星のみならず、天文や科学全般への関心を増大させた。我々は、市民の広がる火星への関心に応えるべく、2003年6月20日に火星観測週間（マーズウィーク）実行委員会を発足し、2003年12月10日まで活動を行った。

活動の主目的は、火星に関する正確な情報の伝達と、イベント情報の広報であり、インターネットホームページを情報伝達的手段として立ち上げた。また積極的にマスコミに情報提供する事で、数多くの正確な情報提供に貢献したと考える。ホームページコンテンツの制作には、教育関係者だけでなく、アマチュアで天体の情報を提供している方々にも協力していただいた。その結果、易しいところから詳しいところまで、火星の情報を提供することができた。また、ホームページサーバーの運用にあたっては、メインである大阪市立科学館のサーバーと、NASDA（現JAXA）とCRLでミラーサーバーを7月末から11月末まで運用し、集中するアクセスに対応する事ができた。

各地での火星イベントのにぎわいは既知の通りであるが、多くの方々が火星観測週間の発した情報を利用していただいたものとする。ホームページの利用件数は運用期間中45万件を超えた。我々の行った企画は希にみるものであるが、今後も同様の活動が展開される事を期待する。発表では、活動の具体的な報告を行う。